

消化器内科カリキュラム

I. 目的と特徴

消化器内科での初期研修では、研修医の先生にいろいろな消化器病患者の診察を行ってもらいます。また、内視鏡検査や腹部エコー検査のモデルを使った短期基本実習の後に、積極的に内視鏡検査や腹部エコーなどの諸検査を実際に行ってもらいます。さらに、カンファレンスや教育セミナーを通して、消化器疾患の診断、治療に関する基本知識を学ぶとともに、学会への参加・発表も行ってもらいます。病棟では、化学療法、肝癌治療、内視鏡治療などを行っている患者さんを通して、基本的な全身管理を学んでもらいます。

また、お花見、阿波踊り、野球大会、医局旅行、忘年会などの各種レクリエーションを通じて、明るい雰囲気の中で、充実した研修を行い、様々な人との触れ合いの中で、医療人としての姿勢を育んでもらいたいと考えています。

II. 研修責任者

高山 哲治 教授 (日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本内科学会認定医、がん薬物療法専門医・暫定指導医、日本超音波医学会専門医、癌治療学会暫定教育医・臨床登録医)

III. 運営指導体制および指導医数

教授 1名、准教授 1名、講師 1名、助教 4名、医員 11名。

研修医 1名につき、1人の指導医が選任され、入院患者の診療を共同で行い、きめ細かな指導が受けられる体制を取っています。日本内科学会認定医は16名、日本消化器内視鏡学会専門医は7名、日本消化器病学会専門医は6名、日本肝臓学会専門医は3名、がん薬物療法専門医は1名います。

IV. 臨床実績

当科では、消化管、肝臓の2つのグループに分かれ、お互いに協力しながら診療を行っています。

- 1) 消化管関連：内視鏡的粘膜切除術、内視鏡的粘膜下層剥離術、内視鏡的胆道ドレナージ、内視鏡的乳頭切開術・バルーン拡張術、内視鏡的総胆管結石破砕術、内視鏡的ステント留置術、内視鏡的拡張術、小腸内視鏡検査、炎症性腸疾患に対する白血球除去療法・抗TNF α 抗体療法
- 2) 肝臓関連：肝腫瘍ラジオ波焼灼療法、腹部血管造影、TAE、PTBD
- 3) がん化学療法：食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆道癌、膵癌、悪性リンパ腫

V. 研修目標

消化器内科研修では、本院卒後臨床プログラム中の消化器系疾患で経験すべき症状・病態・疾患（◎）を満たすことを目標とします。また、2年目の選択科として選ばれた場合は、より専門的な知識、手技（○）を修得することを目標とします。

1) 消化管疾患の診断と治療

一般目標：消化器系疾患の急性期における基本的診療能力を修得する。

行動目標：

1. ◎消化器系疾患の急性期の症状を述べることができる。
2. ◎消化器系疾患の急性期の鑑別診断に必要な検査計画を立てることができる。
3. ◎検査結果を評価することができる。
4. ◎治療計画を立てることができる。
5. ○急性腹症の診察と鑑別診断ができる。
6. ○吐血・下血の診察と鑑別診断ができる。

2) 慢性疾患

一般目標：消化器系疾患の慢性期における基本的診療能力を修得する。

行動目標：

1. ◎消化器系疾患の慢性期の症状を述べることができる。
2. ◎消化器系疾患の慢性期の鑑別診断に必要な検査計画を立てることができる。
3. ◎検査結果を評価することができる。
4. ◎治療計画を立てることができる。
5. ○消化管疾患の検査の意義を理解し評価することができる。
6. ○肝・胆・膵疾患の検査の意義を理解し評価することができる。

3) 基本手技

一般目標：消化器系疾患の診断・治療に必要な基本的手技を修得する。

行動目標：

1. ◎腹部の診察ができる。
2. ◎直腸診ができる。
3. ◎消化器内視鏡検査の基礎を習得する。
4. ◎腹部エコー検査ができる。
5. ○上部消化管レントゲン検査ができる。
6. ○腹水穿刺ができる。

4) 医療記録

一般目標：消化器系疾患の理解を深め、必要事項が正確に記載できるようにする。

行動目標：

1. ◎消化器系疾患について正確な病歴が記載できる。
主訴、現病歴、既往歴、家族歴、等
2. ◎消化器系疾患の身体所見が記載できる。
視診、聴診、打診、触診、等
3. ◎検査結果の記載ができる。
血液生化学、尿、便、内視鏡検査、画像検査（X線、CT、MRI、シンチ）、等
4. ◎症状、経過の記載ができる。
5. ○消化器内視鏡検査及び治療などのインフォームド・コンセントの内容を記載できる。
6. ○紹介状、依頼状を適切に書くことができる。
7. ◎診断書の種類と内容が理解できる。

VI. 研修内容

消化器領域の疾患、検査、治療に広く触れてもらうとともに、研修期間中の各人の具体的な目標として下記の3つを挙げています。

- ① 内視鏡検査：上部消化管内視鏡検査が一人でできる
- ② 腹部超音波検査：スクリーニング検査が一人でできる
- ③ がん化学療法：担当患者の治療を通して、最新の化学療法と全身管理について学ぶ
また、学会発表を行い（一人一演題）、さらに研修医セミナーを1コマ担当し、消化器に関するプレゼンテーション技術の習得ならびに海外論文を調べる習慣を身につけてもらうことを目指しています。

VII. 研修スケジュール

各種消化器内科患者を担当します。受け持ち患者の検査、治療には責任をもってあたり、消化器カンファレンス、教授回診では症例提示を行います。

教授回診：木曜日午前

消化器カンファレンス：月曜日 17:30 開始

医局会：消化器カンファレンス終了後

週間スケジュール：(A) 消化管

	午前	午後
月	上部消化管内視鏡検査 (外来)	小腸内視鏡検査 消化器カンファレンス・医局会
火	内視鏡検査・治療 (外来)	大腸内視鏡検査・治療
水	上部消化管内視鏡検査 (外来)	大腸内視鏡検査
木	セミナー 教授回診	上部・大腸内視鏡検査・治療
金	上部消化管内視鏡検査 (外来)	大腸内視鏡検査・治療

週間スケジュール：(B) 肝臓

	午前	午後
月	腹部超音波検査 (外来)	RFA 消化器カンファレンス・医局会
火	腹部血管造影 (外来)	腹部血管造影、TAE
水	腹部超音波検査 上部消化管内視鏡検査 (外来)	大腸内視鏡検査
木	セミナー 教授回診	腹部血管造影、TAE、RFA
金	上部消化管内視鏡検査 (外来)	大腸内視鏡検査・治療

VIII. 評価法

研修責任者と指導医が研修態度、症例提示、患者さん・家族・スタッフへの対応、知識・技術の習得度などを総合的に評価し、研修中ならびに研修終了時にフィードバックをします。最終的評価はオンライン臨床研修評価システム（EPOC）を用いて行います。